

アーカイブ 通信 No.33

No.33

2025.3.1

◆編集・発行：
ネットワーク・市民アーカイブ

事務局

〒189-0012 東京都東村山市萩山町 2-6-10-1F

tel・fax：042-396-2430

E-mail：info@archive-tama.sakura.ne.jp

◆正会員 1 口 6,000 円、賛助会員 1 口 3,000 円 / 年
ゆうちょ銀行 振替口座 00120-9-729226

口座名：市民アーカイブ ※団体会員 2 口～

寿町と資料室

―歴史の消去・空白を作らないために―

松本 一郎

(ことぶき共同診療所寿町関係資料室)

寿町の変遷

◆日雇労働者の町として

寿町は横浜市中区、JR 石川町駅から中華街とは反対側に歩いて3分くらいの所にあります。寿町、松影町、扇町、長者町などの一帯に簡易宿泊所(以下、簡宿)が林立しており、それを「寿町」「ことぶき」と呼んでいます。「安宿」が集中する簡宿街としての寿町の始まりは1956年10月です。約70年の歴史があります。

戦前の寿町は簡宿が1軒もなく、2階建て木造住宅(多くは店舗兼)が密集し、小商店が建ち並び、港を支える職業・職種の人が多く住んでいた下町でした。戦前の安宿は「木賃宿」でしたが、寿町に隣接する中村町や三吉町周辺に多くありました。1859年の横浜開港以来、波止場、大さん橋、新港ふ頭、高島ふ頭などが設置され、岸壁から離れた大型船まではしけを使い荷物を揚げ(輸出)、または下ろす(輸入)、肉体労働者が必要とされました。

「横浜に行けば仕事がある。何とか食えることができる」と見込んで多くの日雇労働者が中村川沿いに集住したり、分散して人夫部屋に囲われて暮らしていました。貨物船はずつと来るわけではなく、しばらく来ない時もあります。このため港湾労働市場には独特の「波動性」が生まれます。港湾の会社にとっては都合良く雇用しては解雇する日雇労働者がプールされなければいけません。歴史的に見れば、この地域一帯は、開港以来、港関係の商売人の町であるとともに、他から移住してきた労働者の町でもありました。つまり、このような地域性は横浜の内陸には生まれず、臨海地区で条件が揃ったところで歴史的・社会的な役割が与えられたと言えるでしょう。

◆簡宿の町並みから

1950年代後半の寿町は、米軍によって接収解除されて簡宿が建ち始め、職安が桜木町駅前から移転し、変貌する画

期となりました。60年代には簡宿は80軒台に増え、簡宿街としての町並みを形成します。当時は家族世帯も多く、子どもも1000人以上が暮らしていました。65年に社会福祉の拠点として横浜市生涯生活館が設置されます。その後、行政は74年に町の中心部、職安のあった土地に寿町総合労働福祉会館を設置し、上層階に家族世帯のための市営住宅を作り、簡宿から移ってもらいます。加えて、家族世帯そのものが寿町で暮らし始めることが減り、次第

開館 11 周年記念集会

アーカイブズと戦争 ～記録と資料が語る平和への道～

2025 年 6 月 8 日(日)午後 2 時～

講師：吉田 裕 さん(東京大空襲・戦災資料センター館長、歴史学者)



2002 年開館の東京大空襲・戦災資料センターは、国立民営の施設として、散逸しかねない戦時資料や空襲にまつわる人々の記憶を

集め、記録し続けているとともに、さまざまな講座や体験学習の場となっています。「想像力を鍛える場」(吉田さん)として、資料館や市民活動資料はどのような可能性をもっているのか、一緒に考えませんか。

・会場：たましん RISURU ホール 5F 第1会議室

・500 円(会員無料)、事前申込優先、定員 75 人



横浜市寿生活館

に単身男性世帯が多数になります。一方、この頃から港湾日雇労働が次第に無くなり、寿町には道路、ビル、上下水道、ダムなどの建設・解体の仕事に従事する土木建築関係の日雇労働者が多くなっていきまし

た。また、木造の簡宿はほぼ無くなり、耐火鉄筋コンクリート造りがほとんどになります。

ところが、90年代初頭のバブル経済崩壊以降、日雇の仕事はぱったりと無くなってしまう、日雇労働者や野宿者は日々に区役所に生活相談に向かいま

した。もともと、寿町に生活保護世帯は多かったのですが、この時期に急増しました。次第に元日雇労働者ではなく、他の地域で困窮して寿町で暮らし始める人が増えていきました。

◆困窮者を受入れ命を守る拠点
この状況に合わせて、90年